

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 258

2017年

9～10月号

## 行 事 案 内

### 9月手賀沼探鳥会

期 日 9月10日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前8時  
案 内 今月もサマータイムで行われます。  
第2機場駐車場のオープン時間が  
遅いため、ヒドリ橋 第2機場  
道の駅 お立ち台 の順序で移動し  
ます。鳥影も鳴き声も薄い時期です  
が、育った若鳥に期待しましょう。  
ミサゴやカモが早めに戻っている  
かも。まだ暑い時期です、暑さ対策  
をお忘れなく。

解 散 午前11時頃  
担 当 松田

### 10月手賀沼探鳥会

期 日 10月8日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 秋分の日から半月、すっかり秋めい  
てきます。手賀沼には、早くもカモ  
が渡ってくる季節です。稲刈りが終  
わった田んぼでは、移動途中の鳥が  
羽を休めているかも。去る鳥、来る  
鳥、鳥相が変わり始めています。  
この時期ならではの一日、是非ご一  
緒に探鳥を楽しみましょう。

解 散 正午  
担 当 松本

### 9月、10月手賀沼定点カウント

期 日 9月5日(火) 雨天延期  
10月3日(火) 雨天延期  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
解 散 正午予定  
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮  
連絡先 桑森亮  
Tel: 04-7182-3149

### 9月、10月ピオトープ調査

期 日 9月7日(木) 雨天延期  
10月5日(木) 雨天延期  
集 合 手賀沼ピオトープ:9月は午前8時  
30分、10月は午前9時30分  
案 内 9月は留鳥の他に夏鳥のオオヨシ  
キリ、ツバメ、チュウサギが見ら  
れます。10月にもチュウサギが見  
られ、冬鳥のコガモが見られるよ  
うになります。昨年9月は16種、  
10月は17種の野鳥を観察しまし  
た。木はアベリア、シモツケなど  
の花が咲き、草も9月にハナニラ、  
アキノノゲシ、キクイモ、ヌスビ  
トハギ等の花が咲き、10月にはセ  
イタカアワダチソウ、ヒガンバナ  
等の花が咲きます。蝶、トンボも  
多くとびます。9月までは蝉も鳴き  
ます。秋の気配を感じながら探鳥

をしてみましょう。参加希望の方は下記までご連絡下さい。

解散 9月：午前 10時 30分  
10月：午前 11時 30分  
担当 鈴木静治  
Tel: 080-3121-4757

---

---

### 三 番 瀬 探 鳥 会 (再 掲)

---

---

期 日 9月3日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子駅改札口 8:10 又は  
ふなばし三番瀬海浜公園バス停 9:45  
交 通 我孫子駅(代々木上原行き) 8:19  
発~柏駅 8:24 着、  
東武線柏駅(船橋行き) 8:31 発~東武  
線船橋駅 9:01 着、  
徒歩で京成船橋駅南口前 3番バス停  
へ、船橋海浜公園行きバス 9:20 発~  
終点下車 9:40 着  
案 内 二度目の千葉県野鳥の会との交流  
探鳥会です。

三番瀬は日本一のミヤコドリ渡来地です。秋の渡りの時期でオオソリハシシギ、チュウシャクシギ、メダイチドリなど多くのシギ、チドリ類が観察できます。今回はキリアイも近くに出てくれました。コアジサシ、アジサシも期待できます。

子供さん向けの「プランクトンの観察」も行う予定です。

持 物 観察用具、弁当、飲み物、ぬれてもよい靴(長靴)、雨具  
申 込 野口隆也まで(集合場所と携帯電話番号をお知らせ下さい)  
Tel: 04-7163-7898  
担 当 相良、野口(隆)

---

---

### 我 孫 子 ・ 柏 探 鳥 会

---

---

期 日 9月30日(土) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口 午前 8時 30分  
案 内 我孫子・柏の身近な場所で探鳥する新しい企画の探鳥会です。今回

は、次のスポットを予定していません。

手賀の丘公園では、秋の渡りのキビタキ、エゾビタキが期待できます。また、公園近くの手賀沼も探鳥します。  
今井の桜並木では、ツツドリを探します。  
利根川ゆうゆう公園では、セッカ、ノビタキ、猛禽類が期待できます。

なお、下見を行い、探鳥地を一部変更することがあります。

解 散 午後 4 時頃(現地、予定)  
交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人 500 円を運転者にお渡し下さい。自家用車を提供可能な方は、申込時にその旨を連絡願います。  
持 物 観察用具、雨具、昼食、飲み物  
申 込 千葉洋まで  
Tel: 090-2434-4937  
担 当 船津登、千葉洋

---

---

### 第 26 回 野 鳥 サ ロ ン

---

---

日 時 9月16日(土) 9:30~11:00  
場 所 水の館 3F 研修室  
会 費 300 円

次のテーマについて話合をしたいと思えます。担当で資料を用意、説明しますが、これらに関わることにについて参加者からの話もお願いできればと考えています。

テーマ

拾った 1 枚の羽根から何がわかるか?  
カワラヒワ、アオバト、ヤマドリ、トラツグミ等

バードウォッチングの際注意すべき虫  
ヌカカ、アブ、ブユ、蜂、毛虫、ダニ、蜘蛛等

手賀沼周辺の鳥

申 込 鈴木静治まで  
Tel: 080-3121-4757  
9/7 までに申し込んで下さい。  
担 当 小林(寿)、鈴木(静)、西城

## ジャパンバードフェスティバル ( J B F 2017 )

期 日 11月4日(土) 9:30~16:00  
5日(日) 9:30~15:00  
会 場 手賀沼親水広場、オオバン広場(水の館多目的広場)、アビスタ周辺、その他  
案 内 メイン会場は手賀沼親水広場ですが、水の館がリニューアルオープンし、多目的広場をオオバン広場と称してブースが展開されます。アビスタ及びその周辺も会場となります。光学機器関係は親水広場、学生・NPO 団体はオオバン広場、講演・作品展はアビスタなどの予定です。当会の出展は、オオバン広場のテント(予定)、カップ噴水前展望デッキの湖畔バードウォッチングのテント、手賀沼漁協棧橋付近の船上バードウォッチング受付テントの3か所になります。

広 報 JBF全体のイベントについては、広報あびこの10月、11月号をご覧ください。

< 当会の出展内容等 >

「パネル展示」(オオバン広場テント)  
当会の活動状況や会員が撮影した野鳥の写真等をパネルにして紹介します。具体的テーマは未定です。  
「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」(オオバン広場テント)  
野鳥の塗り絵とパタパタ工作を親子で楽しんでもらいます。  
「庭に鳥を呼ぶ」(オオバン広場テント)  
野鳥の好きな草木の実や餌を実物で紹介します。  
「湖畔バードウォッチング」(カップ噴水前展望デッキとテント)

湖畔の展望デッキから望遠鏡を使用して手賀沼の鳥を見て、楽しんでもらいます。

「船上バードウォッチング」(手賀沼漁協棧橋付近の受付テント)

遊覧船で手賀沼を一周し、船上から手賀沼の鳥と風景を楽しんでもらいます。

その他

海外から数か国のブース展示も行われ、当会はこれまで親交を深めている台湾とモンゴルをサポートします。

< 前日会場設営と当日参加のお願い >

当会出展の設営は、前日11月3日(金)の13時30分からオオバン広場の当会テントにご参集下さい。その後、各担当の出展場所へ移動し、設営作業を行います。  
11月4日(土) 9時~16時 各出展場所へ

11月5日(日) 9時~15時 各出展場所へ

\* 会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお待ちしています。

### 9月役員会案内

日 時	9月10日(日) 13:00~15:30
場 所	水の館 3F 研修室
議 題	JBF2017 出展について 会報 259号掲載予定記事について 第27回野鳥サロンについて 報告事項 ・ 対外対応状況他 その他(議題のある場合は桑森までご連絡ください)

# 行事報告

## 6月手賀沼探鳥会

日時 2017.6.11 9:00~12:00

晴れ 微風 24

梅雨入り後の探鳥会としてはさわやかな気候で、31名の参加者がありました。

6月は鳥影が薄く観察できる鳥は限られてしましますが、カルガモ、ムクドリ、コブハクチョウなどが雛と共に休んだり採餌している姿はこの時期ならではのもので、湖面に鳥影がほとんどなく、遊歩道からの観察では湖面を観察する人は少なく、反対側の田んぼに双眼鏡を向ける人ばかりです。そうした中、第2機場からの遊歩道脇の田んぼでコチドリを多くの人が見ることが出来ました。恒例のハヤブサは残念ながら今回は観ることが出来ませんでした。最後は今日のお目当てのヨシゴイを観に、浅間橋に足を伸ばしました。幸い2~3回ヨシゴイが飛翔する姿を多くの人が見ることが出来ました。結局参加者数をわずかに上回る33種の鳥を観察でき、この時期としてはまあまあ探鳥会になりました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、オオバン、ホトトギス、コチドリ、トビ、サシバ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計33種  
番外：カワラバト

<参加者> 鈴木静治、青木明、野口隆也、金子雅幸、桑森亮、村瀬和則、千葉洋、高波宣子、野倉元雄、石井俊子、榎本右、類地佑子、小林博之、小林美智子、船津登、西嶋昭生、石渡成紀、松田幸保、間野吉幸、鈴木美枝、鈴木麻理絵、鈴木尋貴、佐藤弘美、常盤孝義、小林寿美子、古出洋子、菊地幸雄、菊地昌江、野口紀子、坂元貴子  
(担当) 小澤淳宏 計31名

## 6月手賀沼定点カウント

調査日時 2017.6.6 9:00~12:30

曇り時々晴れ 19 ~ 21

例年のことながら沼面に鳥影はほとんど無く、カウント個体のほとんどが周辺の田にいる状況。今回カウントの内、幼鳥はコブハクチョウが5羽、カルガモが9羽。カモメ類の2羽、全体にスマートで足が橙色、背が淡いグレーでユリカモメの幼鳥と判断した。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	2	12	14
カルガモ	38	2	40
カイツブリ	9	4	13
カワウ	23	15	38
アオサギ	1	4	5
チュウサギ	0	2	2
オオバン	2	3	5
ユリカモメ	2	0	2
合計	77	42	119

<調査者> 桑森亮、金子雅幸、船津登 計3名

## 6月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2017.6.1 9:30~10:30

曇り 晴れ 無風 23

沼にはほとんど鳥が見られず、岸近くを飛ぶカワウが見られるのみ。ピオトープ周辺(範囲外)でキジ、コジュケイ、ホトトギスの鳴き声、ピオトープでは池にカルガモが見えるのみで、カイツブリの鳴き声が聞こえる。葦原ではオオヨシキリ、木の上でホオジロが囀る。アオサギ、シジュウカラ、スズメ、ツバメ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバトが飛ぶ。幼鳥を連れたコブハクチョウも見られた。田植えの終わった青々した田ではチュウサギ、アオサギ、カルガモ、ハシボソガラスが餌探し。その上をスズメ、ハクセキレイ、ツバメが飛ぶ。観察した野鳥 16

種 87 羽。他に木の花 7 種、木の実 1 種、野草の花 19 種、野草の花穂、種子 11 種、蝶 10 種、トンボ 1 種、カマキリ卵塊 1 種、カメムシ 1 種、バッタ 2 種、蜂 4 種、蟻 1 種、蠅 2 種、蚊 1 種、アブラムシ 1 種、甲虫 3 種、蜘蛛 3 種、蛙 3 種も観察出来ました。

< 認めた鳥 > コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、チュウサギ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計 16 種 87 羽

< 調査者 > 鈴木静治、間野吉幸、船津登、池田日出夫、千葉洋 計 5 名

### 7 月手賀沼探鳥会

日 時 2017.7.9 8:00 ~ 11:10  
晴 弱風 29 ~ 33

今月からサマータイムで 8 時集合になりました。気温は、8 時で 29、11 時に 33 と真夏の探鳥会となりました。この暑さの中、初参加者 4 名、小学生男児 2 名が参加され、うれしかったです。探鳥コースは、ヒドリ橋から第 2 機場へ歩くコースに変更しました。上沼では、オオヨシキリは、沼側の葦原でなく、田圃側の葦などで鳴いていました。下沼のお立ち台では、沼側の葦原で鳴くオオヨシキリ、田圃の上空を飛ぶ 2 羽のトビが見られました。浅間橋下流側の手賀川でヨシゴイの姿を探しました。すぐに 1 羽がわずかの距離を飛びましたが、その後なかなか見られず、その間カイツブリ親子が見られ、あと 5 分待とうと言うと 2 羽のヨシゴイが飛んで、最後の 1 羽は、皆の見ている前を長く飛んでくれました。皆がヨシゴイを見られ良かったです。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、オオバン、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 27 種

番外：カワラバト

< 参加者 > 関口英治、関口久実、中根文世、野口隆也、間野吉幸、桑森亮、森本宣久、村瀬和則、常盤孝義、渡邊俊文、菊地幸雄、菊地昌江、千葉洋、坂元貴子、西嶋昭生、佐藤弘美、木村稔、松田幸保、古出洋子、青木明、鈴木美枝、鈴木尋貴、小林博之、小林美智子、石井俊子、新堀正則、新堀暖人、相良直己、野口紀子、鈴木静治、田丸喜昭

( 担当 ) 船津登 計 32 名

### 7 月手賀沼定点カウント

調査日時 2017.7.7 9:00 ~ 11:45  
快晴 微風 26 ~ 30

例年のことながら見られる鳥が殆ど無く、最短時間、最少確認数でカウントを終えた。( 稲の背丈が伸び、田んぼの中に入られると姿が見られない為 )

下沼で幼鳥を世話するノスリが見られたが、この近くで繁殖したものではないかと推測。ヒクイナの声が確認できたが、これも 2 度目の繁殖行動か？一夫多妻で有名なオオヨシキリが、まだ囀っていた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	5	12	17
カルガモ	1	0	1
カイツブリ	3	6	9
カワウ	20	18	38
アオサギ	1	3	4
ダイサギ	2	1	3
チュウサギ	0	7	7
ヒクイナ	1	0	1
オオバン	0	1	1
ヒヨドリ	0	2	2
合計	33	50	83

< 調査者 > 桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3 名

### 7 月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2017.7.6 8:30 ~ 10:30  
曇り 晴れ、中位の風、27

昨夜の雨のためスタート時には鳥、虫の出が少なかったが、天気良くなるにつれ鳥、蝶、トンボ、クワガタムシ等が見られるようになる。ピオトープ周辺の斜面林、水田は一面緑で、沼には鳥が少なく静か。ヒメガマの穂が目立つ。水田ではキジの2家族が見られ、うち1家族(1幼鳥5)は畦でイタチに遭遇し、が幼鳥を守るためイタチを威嚇する光景が、他の1家族(1幼鳥3)は草原で草を採食する光景がみられた。また畦でハシボソガラスの幼鳥5羽がザリガニを捉え、嘴で啜り飛ばし弱らせてから食べる様子も観察出来た。ピオトープの草原で草を食べるコブハクチョウの家族(1幼鳥4)は先月の幼鳥6羽より2羽少なくなった。池にはカルガモが3羽いる程度で、カワセミが飛ぶ。シジュウカラ、スズメ、ツバメが飛ぶ。茂みでウグイスが囀る。地鳴きは冬ここでよく聞けるが、囀りは珍しい。繁殖期のせいか沼には鳥はほとんど見えない。沿岸近くでカイツブリの鳴き声、カワウが岸近くを飛び、トビが上空高く飛ぶ。観察した野鳥15種68羽。他に蝶11種、蛾1種、トンボ4種、ハエ2種、甲虫5種、カメムシ2種、バッタ2種、ハサミムシ1種、蜘蛛3種、蛙3種、小動物4種、木の花7種、木の実3種、野草の花23種、野草の花穂、実7種も観察出来ました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、セグロセキレイ 計15種68羽

<調査者> 鈴木静治、池田日出男、船津登金子雅幸、蒲田知子、千葉洋、古出洋子 計7名

---

### 三宅島探鳥会

6月2日~4日

---

バードアイランド三宅島は素晴らしい!

金子雅幸

強風で波高3m強の中を6時間半、最新鋭の「橋丸」5700tは全員船酔いする事無く朝5時三宅島に接岸。宿に荷物を置いて

すぐに三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館周辺で朝探。

この辺りは「日本一のさえずりの小径」の謳い文句どおり、森に一歩踏み出した途端イジマムシクイ、タネコマドリ、オーストンヤマガラ、アカコッコ、カラスバトなどなどのさえずりシャワーに包まれたが、これ程密度の濃い森を歩いた事は初めてでモードは一気に全開。しかし深い藪木立で薄暗い森はすぐそこで鳴く鳥が中々見つけれないが、大路池まで散策する内に少しずつ声が聞き分けられる様になり、姿もポツポツと見られる様になった。池から見上げる雄山は2000年の噴火で立ち枯れた樹々を残しながらも自然は回復しつつあり、美しい光景を作り出していた。

朝食後は再びアカコッコ館の水場で、水浴びに来る鳥達を観察・撮影して過ごした後、ウチヤマセンニュウ狙いで富賀自然公園へバス移動。しかし強風は一向に収まらず、声はするが草に潜ったままで姿が見られない。次のバス時間まで岬から沖を見ていると、群れ飛ぶオオミズナギドリやウミガメの姿が見られ、アマツバメの飛翔も楽しめた。ウチヤマセンニュウのメッカ、伊豆岬まで(車内でフリーキップを購入したが、同じ運転手さんで既に払った大路池から富賀までのバス代を引いて呉れると言う粋な計らいが、鳥の人達は気持ち genuinely 優しい。) 出向くと、流石に強風の中でも茅の天辺でさえずる姿が2羽3羽と見られ、おまけに西陽をうけて鮮やかな色を見せるカラスバトまで堪能出来た。

初日で殆どの鳥をゲット出来た我々は、夕食時の地酒が殊更美味しいと話が尽きず、永い夕食となった。

思いのほか寒く目覚めた朝は、宿周辺で探鳥。ホトトギスが何羽も飛び交い、(托卵する相手が居ない為か、カッコウ・ツツドリは見られずホトトギスのみ多い)タネコマドリも鳴いている。本土では1500m以上の高地でしか聞かれないコマドリが、海拔数十mで聞かれると言う何とも不思議な体験。

朝食後、乗船までの残りの時間はやはりアカコッコ館へ。流石にこれだけ鳥数が多いと慣れるのか、あれ程苦労したイジマムシクイなどもすぐ見つけれられる様になり、最後まで

でチラ見で終わったのはモスケミソサザイだけとなった。種類が多い訳では無いがこの島固有の鳥達を数多く見られ、さえずりを堪能出来た大満足の探鳥会だった。

噴火から 17 年、離島した住民も多く人口は激減したそうです。釣りにダイビングに探鳥にと訪れる人は結構居るが、商店はほとんど無く溶岩の痕跡もまだ残っている。しかし蒼い海から一気に山が立ち上がる風景は本当に美しく、この景色を見るだけでも島に来る価値はあり、その上多くの鳥達も待っていて呉れるのだから、何方にも一度は訪れて欲しい三宅島であった。

帰路の船上からは、偶々出会ったアルパインの T 氏に教わりながら海鳥観察をしたが、今回はオオミズナギドリとハシボソミズナギドリのみ。その代わりに、クジラやイルカ、トビウオが姿を見せて呉れて盛り上がった。

何時かまた三宅島探鳥会が企画されるなら、固有種も出揃い尚且つ海鳥もまだ楽しめる 5 月上～中旬頃がベストだとの事。

鳥だけでなく、絶景も楽しもうと企画された今回の探鳥旅行。自身は 2014 年の台湾探鳥旅行以来、体調不良等で暫く欠席していましたが回復しましたので、勇んで参加致しました。

### 【幹事報告】

6/2(金)は竹芝ターミナルに集合し、22:30 発の東海汽船・橋丸に乗船し、6/3(土) 5:00 三宅島・三池港着。民宿ラッパ荘の車で宿に向かい、荷物を置いた後、宿の車でアカコッコ館に向かう。周辺の鬱蒼とした森から聞こえる色々の三宅島固有の鳥の囀りを聞きながら、大路池への道を進む。大路池周辺はスタジイ、タブノキからなる照葉樹林で、ガクアジサイの花、ハチジョウイボタノキの白い花が咲き、ハチジョウキブシの実、大島桜の実、美味しいハチジョウ桑の実、モミジイチゴの実が多くみられた。樹齢数百年という椎の大木で噴火を司る神が宿る神木「迷子椎」まで行き、宿で朝食を摂るため、宿まで鳥見をしながら歩いて帰る。8:00 に待望の朝ご飯、休憩後、また宿の車でアカコッコ館まで送ってもらう。11:43 の三宅村営バスで富賀浜に向かう。富賀神社前で下車。宿で作ってもらったおにぎり弁当を境内で食べる。その後、富賀浜に向かい探鳥。浜ではハマボッス、

テリハノイバラ、ハマナデシコの花が咲く。15:41 のバスに乗り、16:11 伊豆岬入口着。オオセッカのように囀り飛翔をするウチヤマセンニュウを探鳥後、再度バスに乗り三宅高校前で降り、宿に着く。19:00 に夕食。アシタバの天ぷらが美味しかった。その後歓談し就寝。6/4(日)は 5:30 から 7:00 まで近くの三宅高校周辺、海岸の長太郎池で探鳥。海岸へ降りていく途中、小径の両側にオオバヤシャブシの畑の下にアシタバが植えられていた。朝食後、8:30 宿の車でアカコッコ館に向かう。前日囀りのみであまり見られなかったのも、水場に近い裏のハイドで待っているとアカコッコ、コマドリ、ヤマガラ、メジロ、イジママシクイの餌採り、水浴等がよく見え、撮影でき皆満足。なおミソサザイは屋根の端に巣を構え雛に給餌する様子が観察出来た。アカコッコ館から歩いて大路池まで山道を降りる。この池は綺麗な水色をした 2,500 年前の噴火口に水が溜まったもので、現在は三宅島の水道の水源になっている。

11:37 のバスに乗り 11:50 三池に着、近くの食堂サンライズで昼食を摂る。三池港を 13:35 発の橋丸に乗船し、晴れ渡り波静かな海に遠ざかる三宅島、御蔵島に別れを惜しみ、途中、鳥、イルカウォッチングを楽しみ、横に神津島、式根島、新島、利島、大島を見ながら東京湾に入り 19:40 無事、竹芝ターミナル着。ここで解散。2008 年 7 月に本会の木村さんら 13 名(うち 3 名、今回参加)で三宅島探鳥(ほーほーどり 204 号、2008/8-9 月号)されていますが、比べてみますと鳥では今回、アカコッコが少ないように感じました。アカコッコはオオバヤシャブシ、シイ、松林に営巣しますが、巣は 0.5~6m の枝上にあり、2m 位のタケ、アジサイの茂みの中にあるものが多く、島には蛇が居ないのでネズミ駆除のため 1970、1980 年代に導入されたイタチに卵、雛が捕食され減少しているようです。繁殖率は低く約 7%と言われています。またタカ類、アオバズク(船旅後、早朝からの探鳥で疲れていて早く寝たせいかもしれませんが)を観察出来ませんでした。浜の植物では今回は初夏の花が咲き、2008 年は夏の花が咲いていたようです。なおトンボはシオカラトンボ、蝶はヤマトシジミ位しか見ませんでした。トンボでは淡水池が少ないこと、蝶では食草

の種類が少ないことと関係していると思われました。

<認めた鳥>\*カラスバト、キジバト、オオミズナギドリ、ハシボソミズナギドリ、ダイサギ、チュウサギ、ホトトギス、アマツバメ、ウミネコ、セグロカモメ、コゲラ(ミヤケコゲラ)、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ(オーストンヤマガラ)、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、\*イイジマムシクイ、メジロ(シチトウメジロ)、ウチヤマセンニュウ、ミソサザイ(モスケミソサザイ)、\*アカコッコ、コマドリ(タネコマドリ)、イソヒヨドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計 30 種、番外コジュケイ

( )は亜種名、\*国・天然記念物を示す。なお鳥の他に、イタチ、ウミガメ、イルカ、クジラ、トビウオ等も観察しました。

<参加者>村井みとい、金子雅幸、船津登、松本勝英、(幹事)田中功、鈴木静治、桑森亮 計 7 名

---

---

## 道東探鳥会

6月12日～16日

---

---

### ～道東探鳥会紀行雑感～

間野吉幸

今回の道東の探鳥は私にとって2回目でしたが、改めて感動の大きい探鳥会であった。

その時の印象を徒然に記してみる。5日間の内、雨に祟られたのは4日目午後のワッカ原生花園と5日目早朝の信部内(しぶのつない)だけで、9割方天候に恵まれた。

釧路空港に降り立って直ぐ、バスで愛冠岬に向かう途中タンチョウ3羽と至近距離で出会う僥倖に恵まれた。幸先のよいスタートとなった。

最初に訪れた愛冠岬(厚岸町)は厚岸湾に突き出た岬で、展望台がある所は約60mの断崖の上にあった。眼下には靑空と一体となった厚岸湾がアイニンカップ岬にかけて優雅な曲線を描き、大黒島に続く眺めは素晴らしかった。野鳥はハシブトガラなどカラ類4種が同じ林で生活していた。次に訪れた琵琶瀬展望台(浜中町)では景色を楽しむ予定だけであったが、目の前にウソが現れ全員釘づ

けになってしまった。宿に向かう途中、藻散布(もちりっぷ)に寄るとスズガモとキンクロハジロが羽を休めていた。これで初日の探鳥は終了し浜中町にある民宿「より道」に向かった。

2日目は早朝4時からの宿周辺(霧多布湿原に隣接)の探鳥だ。早朝探鳥のハイライトは鳴きながら飛びまわるオオジシギが目の前に急降下し上昇して行ったことだ。カッコウモスコープでしっかり確認出来た。その他多くの草原の鳥が観察出来た。

浜中湾に面した霧多布岬ではアマツバメの群れが高速で飛び回り、そのまま断崖絶壁の巣穴に飛び込んで行った。また海ではアザラシ、陸ではエゾシカが見られた。霧多布岬より西に約4km離れたアゼチの岬ではノゴマとオオジュリンが印象的であった。ノゴマは枯れた茎先で赤い喉を震わせ大声で囀っていた。オオジュリンの雄は、頭と喉が黒くなり何時も冬手賀沼で見ている姿から大変身した姿に見とれてしまった。

岬より霧多布湿原に戻り榊小学校付近で鳥を探したが、北に行きはくれたオオハクチョウの幼鳥が1羽だけ池で泳いでいた。その後、霧多布ネイチャーセンターを訪れ、昆布の土産を買った。霧多布のある浜中町は昆布生産量が日本一だそう。バスでの道すがら、一本一本昆布を砂利の上に二人がかりで伸ばす手間の掛かる作業をそこかしこで黙々と行っていた。

コンビニにて手当した弁当を車中で食し落石岬に向かった。落石岬の目当てはオジロワシだ。落石湾から吹く風が半島の約45mの断崖に当り上昇気流が生じその風に乗って、成鳥、若鳥が群れて気持ちよさそうに幅広の巨大な翼を広げ眼前で飛び回っていた。一緒に飛んでいたオオセグロカモメが小さく感じられる程立派な姿だった。オジロワシの飛翔に感激し、落石漁港で休憩を取り一路風連湖に向かった。

風連湖に着くと、オホーツク海と風連湖の間を仕切る春国岱に向かった。春国岱は前回訪れた時、色々な野鳥に会えたので期待して木道を歩いて行ったが、途中で行き止まりになり引き返さざるを得なくなった。これは昨年の高潮被害で大きな被害を受けたことが理由であった。再建の途中とのこと。

探鳥は早々に切り上げ宿泊先に向かう途中、木道で餌を銜えたキタキツネと出会うハプニングがあった。子育て中のキタキツネは巣に餌を運ぶ途中であったらしく歩いて来たが、私と目が合ってしまい一瞬立ち止まり後ずさりした。木道の先には大勢の人がいたので戻ることも出来ず行ったり来たりの状態であった。可愛そうになったので私が目をそらしたら意を決したように私の顔色を窺いながら脇を通り抜けて春国岱の巣に向かった。どうしても子供に餌を与えたいと思う親の強さを感じた。

春国岱は空振りに終わったが、宿(レイクサンセット)に着いた時、宿の主人が丁度良い時に帰って来たと、宿の裏手に案内してくれた。タンチョウの番が採食している姿を、センダイハギを前景に十数メートルの至近距離で写真に収めることが出来た。

3日目の早朝探鳥は、宿の前の国道44号線沿いに行った。早速コヨシキリ、ノゴマ、ベニマシコが葦原や道沿いの有刺鉄線に現れた。沢山のエゾセンニュウが林の中で囀っているのを堪能できたが、姿は見る事ができなかった。一方オオジシギはズビヤク・ズビヤクと鳴きながら飛び廻っていたが、近くの送電塔に3羽一緒に止まり暫くの間じっとしてくれたのでゆっくり観察できた幸運に恵まれた。

今回の目玉である落石クルーズは、二隻の漁船に乗って海上からの海鳥探鳥であった。私は2号船に乗り落石漁港よりエトピリカを求めユルリ島、モユルリ島に向け出航した。途中ウトウやケイマフリの群れにであったがなかなかエトピリカに出会えなかった。1号船はエトピリカが海上で佇んでいる所を観察したようだが、私は飛んでいるエトピリカを双眼鏡で見たのがやっとだった。帰路は1号船と2号船では天と地の乗り心地であった模様だ。1号船の人は全員後部に移り飛沫を避けられたが、2号船の後部は飛沫を避けられるスペースが2人分しかなく、2人を除いて顔をびしょり濡らしていた。落石クルーズも終り、私たちは車中昼食を摂りながら尾岱沼に向かった。尾岱沼では別海北方展望塔に登り国後島・択捉島を間近に見た。尾岱沼で休息を取った後、野付半島に向かった。野付半島のオホーツク海の砂浜

ではオジロワシが点々と浜辺に下りていた。私たちはトドワラに向かった。私は奥まで行かず中程で野鳥の出るのをじっと待った。するとノジコ、コヨシキリ、コジュリン等が近くに姿を現してくれた。

探鳥後は宿泊先の羅臼町の「鷺の宿」に向かった。宿は本館と別館に分宿した。「鷺の宿」は羅臼の海岸沿いの道道87号線より約150m陸側に入った沢沿いにあった。両側は急峻な山に覆われ突如山奥に入り込んだ感じがした。

午後6時より全員で晚餐を楽しみ、シマフクロウを待った。前日、前々日は1回目が午後11時頃現れたと宿の方から聞いていたので、夫々思い思いに過ごした。準備をして5時間が過ぎた午前0時になってもシマフクロウの声も聞こえない、何人かが諦めて宿に戻ったが、多くの方は来るまで居ようと、ひたすら待った。0時15分頃宿の人からフクロウの鳴き声が聞こえる、15分から30分するとここに来ると伝えられた。

私の耳には鳴きあう声は微かに聞き取れた位だった。それから約30分、0時44分に雌が生簀近くの上木に下り立った。暗く僅かに姿がぼんやり見えた。約2分後、生簀に下り立ちヤマメを食べ始めた。宿の主人によると9尾食べたそうだ。約7分後(0:53)雄が飛来し2羽揃って採食をしていた。雌雄揃っての採食は2分程度で先に来た雌は満腹したのか、何処かへ飛去(0:55)して行った。雄も暫く(3分程度)採食し飛び去った。この間、時々羽を広げたり、魚を銜えたり、私たちに眼を向けたり、色々な所作を十分楽しませてくれた。約15分弱のシマフクロウ劇場は5時間半以上待った甲斐があった。私は別館に行き就寝したが、約2時間後にも一度シマフクロウが1羽現れたとのこと。

4日目は、知床峠を越えてオホーツクエリアの探鳥だ。知床峠での目玉は、ギンザンマシコだ。アトリ科の中ではやや大型に属する桃赤色で嘴が太く短いこの鳥は、存在感があり7年前に観察した時、感激した思い出があった。私たちが知床峠に8時50分頃着いた時は、霧が立ち込めて視界が開けなかったので心配した。僅かな霧の切れ間に、ハイマツの上にいるギンザンマシコを桑森さんが

見つけ、殆どの人が見ることが出来た。私もスコープで捉えることができ十分姿を堪能した。今回も好運に感謝した。

9時半前に次の探鳥地である知床自然センターのある「ホロボツ園地」について。園地にある約100mの海蝕崖の割れ目から流れ落ちるフレペの滝は、ホロボツと流れおちる様が涙に似ていることから、別名「乙女の涙」と言われていると看板に書かれていた。またこの周辺の海蝕崖は、海鳥のコロニーとして知られているが、オオセグロカモメ、アマツバメが観察出来た。フレペの滝を後に、谷筋に雪が残る知床連山を楽しみながら、開けた草原を歩むとあちこちの樹木の上でピンズイの姿と妙なる囀を堪能した。知床自然センターで一休みした後、小清水原生花園に向かった。

小清水原生花園はオホーツク海と涛沸湖の間に挟まれ、原生花園の中には釧網本線原生花園駅がある。花園の中には色々な花が咲き乱れていたが、生憎花の名前はハマナスとセンダイハギしか同定出来ない。花園に足を踏み入ると草原の鳥が迎えてくれた。種類数は少ないが、ノゴマ、ノジコ、オオジュリンが姿を見せてくれた。カッコウもしばらく梢に停まってくれた。

ワッカ原生花園に着く少し前から雨が降り出した。ポンチョを着て観察を始めたが、空振りに終わった。ワッカ原生花園は小清水原生花園に比べ広大な敷地で色々な草原の鳥が期待できただけに残念であった。早々に切り上げワッカ原生花園より車で数分の所にある民宿「船長の家」に向かった。

宿の温泉に浸かり手足を伸ばしゆったりとした気持ちの後の晚餐の量には吃驚した。4人掛けのテーブルに海鮮料理がびっしり、蟹も花咲蟹、毛蟹、ズワイ蟹の三点セット、四人分を二人で食べる豪華てんこ盛りでとても食べきれぬ量ではなかった。とても美味しかったが食べきれず残った蟹などは冷凍して持ち帰ることができるサービスがあった。食後午後8時より海鮮物が当たる抽選会があり、幸運なことに毛蟹が当たった。

5日目は、早朝探鳥で始まった。午前4時にバスで民宿を発ってシブノツナイ原生花園に向かった。センニュウ類を観察する探鳥であったが、小雨が降り足元が雨で濡れ、道

も草で覆われていたので途中で探鳥を中止した。それでもシマセンニュウ、マキノセンニュウの鳴き声はしっかり聞こえたが、姿はなかなか見えなかった。帰路湧別町の上湧別百年記念公園で休憩し「船長の家」に戻った。

朝食は一般の民宿の夕食並みの豪華版で、これで採算が合うのか心配になった。

最後は美幌峠と屈斜路湖への旅だ。北海道の大平原に抱かれバスは美幌峠に向かった。美幌峠より見下ろす屈斜路湖は見事な眺めであった。非常に霧の多い所と聞いていたが、最後の探鳥地和琴半島まで見えて、今回の探鳥会の素晴らしさを実感した。

旅の思い出に和琴半島を一周した。一周約2.4kmであるが森林に覆われ野鳥はセンダイムシクの鳴き声ができる程度で成果はなかった。和琴半島一周の入り口の所に露天風呂がある。そこに水着を着て入浴を楽しんでいる若い男女がいた。大自然に囲まれた大らかさを感じた。和琴半島の入り口の林の中は、アカゲラ、コゲラ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、センダイムシク、ハクセキレイが至近距離で観察でき、全ての探鳥は終わった。

今回の探鳥旅行は、幹事の皆様の半年に亘る用意周到な準備と案内で、美しい道東の景色を堪能しながら、仲間と楽しく探鳥が出来ました。認められた野鳥は75種を数え至福の5日間でした。幹事の皆様に心より感謝致します。

### ～待望の道東探鳥会～

古出洋子

6月12日待ちに待った道東探鳥会の朝です。快晴の中羽田を出発し、定刻通り13時釧路空港に到着し、これから5日間お世話になる真っ赤な大型バスに乗り込みました。うれしいことに一人2座席を占めることが出来、隣にリュックを置き、窓側に行こうが通路側に行こうが自由です。

出発して間もなく、青々とした草原に3羽のタンチョウを見出す。バスは一時ストップをしてくれました。3羽のツルは様々なポーズをしてくれ皆夢中でシャッターを切りました。それから移動に約100分、厚岸湾に弧を描くように突き出た愛冠岬に降り立った時には、さすが北海道と思わせる肌寒さを感じられました。入口に愛冠の語源が記さ

れた碑があり、森に進み入るや様々な囀りに迎えられました。それらは後に姿を見出した、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラなどでした。草原から岬に出ると湾曲した断崖の下の海の色は碧く、まさしく最果ての北海道の感頻り。鳥影は少なくエゾシカの群れが私たちを避けるように、あちらこちらと動くのみ。帰路入口付近の囀りの中の1種、私にとって初見のハシブトガラをしっかりと観察することが出来ました。またここに咲いていたクリソウに似た赤紫の花に注目が集まりました。(のちにユキワリコザクラと判明)

藻散布沼(もちりつがぬま)に立ち寄った時、スズガモが数羽、その中に1羽キンクロハジロが混じり、その奥の葦原にタンチョウの姿が見えたので、さらに進んで行くと頭部の色が薄い幼鳥と思われる4羽がおりましたが追われる様に林の中へ姿を消してしまいました。

次の琵琶瀬展望台に着いて、展望台に上った松本さんが「ウソ!」と言いながら指さす、多くがそちらに集まった。その下の生垣の上にきれいなウソの がおり、皆でパチパチシャッターを切るも全く動こうともせず被写体となってくれ、やがて近くの柵に移り飛び去ってしまいました。確かその辺りに もいた様な。巣でもあったのではと皆で推測する。すでに18時近く。眼下に水辺が見え、その周辺に集落がある。あんな低地にとっていたらそこが霧多布湿原、一泊目の宿 より道のある場所であった。

一泊目の夕食は、先ずは天候にも恵まれ初日を無事終えたことに感謝しビールで乾杯し、宿自慢の料理をおいしくいただきました。

私たちの部屋は南西が総ガラスで明るかったので(もちろんカーテンはありましたが)朝の光と冷気が早くから感じられ、霧多布湿原の早朝探鳥に出かけました。早くもコヨシキリの囀りが聞こえ、彼方の木にオジロワシ、ノビタキがあちこちに。先に向かうと電線にノゴマがこちらを向いて止まっているので慌ててシャッターを切った。このノゴマが引き返した我々を追ってきて、またもや写真に納まってくれた。この辺りではノビタキ、コヨシキリが多く、突然オオジシギが真上を鳴きながら飛んで行ったりした。のどか

なカッコウの声も聞こえ、朝食のため宿に帰る頃は暖かくなり、午前中を使い切って昼食を食べに帰る様な錯覚を覚える。

13日の午前中は周辺の霧多布岬、アゼチ岬を探鳥、オオセグロカモメ、ウミウ、ヒメウなど。小澤さんがアザラシを見つけしばし賑わった。ここでも電線にノゴマが止まっていた。

岬の一角に 霧多布温泉ゆうゆ の白い建物ゆったりと建ち、放牧の乳牛の群れ、昆布を干す人々の姿が見られました。時期にも依りますが、今まで数回北海道を訪れていますが、あの広大な畑でも働いている人達を見かけたことがなかったので、いつ働いているのだろうと不思議に思っていました。ここから次の探鳥地まで80分ほどあるというので、コンビニで各々お弁当を買って、車中で食べました。(以降移動距離が長い時は全てこの様な手段を取りました)

睡魔が襲い、落石岬に到着した時には眠気も覚めやらず、どこに着いたかも臆の感じで下車すると、オジロワシが数羽勢いよく飛び交っています。オジロワシ、オオセグロカモメが矢のように飛んで来る。私には鳥は無理と思い、撮影隊を撮影する。

今夜の宿も分宿で、まず、コテージからなるレイクサンセット泊の10名の荷物を宿に預け、次に民宿・風連泊の11名の荷物を預け、春国岱(しゅんくにたい)の探鳥をする。春国岱ガイドによると、「春国岱は数千年の時間をかけて知床方面からの海流が運ぶ砂が堆積した3列の砂丘から出来ていて、海岸、草原、湿原、森林、干潟など多様な自然環境と砂丘の形成年代による植生の違いなどが見られ、野鳥の宝庫としてこれまでに約250種類の野鳥が記録されています」とありました。バスから降り、立派な木道を進んでいく。ヒバリが賑やかに囀り、天高く上がるや先の方に急降下する姿が何度か見られた。(皆で「日一分、日一分と上がっていく」と、言いながら)立ち枯れた木がまばらの中を進むと、2羽の鳥が飛んできて1羽が枯れ木の天辺に止まる。「カッコウだ」と言った途端、先頭がその下に到達し、あっという間に次の木から次の木へと飛び移り遠ざかってしまった。しかし途中で留まっていた大久保さんは、このカッコウをしっかりと撮っていたのでし

た。もう少し行くと木道が途切れていたの  
そこから引き返したのですが、ここでキタキ  
ツネに会ったのです。私たちが会ったときは  
木道から外れたところを魚を銜えて来たの  
ですが、後方の我々の2つの集団の間の木  
道上で板挟み状態になり、行こうか戻ろうか  
思案の様子を見せたのは、ちょっと気の毒で  
した。最後尾の人が横を向いてあげたらすり  
抜けて行ったのですが、「きっと子ギツネが  
待っているのでしょう。母は強しね」など言  
い合った。

この夜、私たち風連組は、宿の奥さん手作  
りの マタタビ酒 の食前酒と弘實さん差し  
入れの 女性向けワイン の両方で、かなり  
酔いが回ってしまった。

14日 窓の外から聞こえる囀りで目が覚  
める。まだ4時なので、そっと窓を開け、  
持参のICレコーダーで収録する。5時に約  
束した人達と朝探に出かける。ウグイス、コ  
ヨシキリが美声を放っている。常日頃耳に  
しているオオヨシキリの囀りと比べ、コヨシ  
キリの囀りは何ときれいなのでしょう。本当  
にほれほれする囀りです。オジロワシとセグ  
ロカモメが仲良く岸壁に止まり、漁船の帰  
りを待っているのでしょうか？この葦原のコ  
ヨシキリも降りては上りを繰り返す、他へ  
飛んでいくことはありませんでした。

朝食の時、宿のご主人に、宿前での朝の囀  
りの主を尋ねたら、「シマセンニューです」  
との答え。かなり大きな声での囀りだった。  
囀りの位置は依然変わらないが、姿を見る  
ことは叶わなかった。

次いで、本日の目玉、落石漁港から、エト  
ピリカ、ケイマフリ、ウトウなどを目指し2  
時間半のクルーズです。(私は事前説明会に  
全く出席できず、クルーズの賛否を採って  
いたので、らくせきクルーズで危険なのだ.....  
などと思っていて、おちいし という地名  
だったのです。笑っちゃいますね)エトピリ  
カ館でトイレを済ませ、防寒の準備甚だしい  
厚着の上にセーフティジャケットを付け、こ  
ろころとした格好で漁船を改造した二艘の  
船に乗り込む。(定員12名)案内人は習志  
野にある大学を卒業し、谷津も我孫子・手賀  
沼も訪れたことのある青年だった。波間にケ  
イマフリやウトウなどを見つけると教えて  
くれた。やがてコルリ・モユルリ島に近付き、

「岩礁の中ほどをエトピリカが飛んでいま  
す」との説明があるも確認できず。「海面に  
下りれば暫く留まっているのですが」と言っ  
た間もなく海面に下りたので、急接近してく  
れ、皆が一ヶ所に集まった為、ひっくり返る  
かと思う程でしたが、必死になって双眼鏡で  
覗き込みました。独特の赤い嘴、白い頭部が  
見えました。波が荒くお互いぶつかり合いな  
がらの観察でした。エトピリカを見てから鳥  
を迂回し帰路に。波をかぶるので全員船尾に  
避難させられ、全速力で港に戻りました。「ご  
無事で」の声に迎えられた時が丁度12時(予  
定通り)なのでお腹も空き、コンビニで各自  
お弁当を調達しました。この間も100分。  
トイレ休憩の別海北方展望塔では、2階の望  
遠鏡で(ここから国後まで16km)の国後島  
を間近に見、「北方領土返還」の署名をしま  
した。小学生の時、中標津町の渡辺睦子さん  
と文通をし、手紙の中に「晴れた日には国後  
島がくっきりと見えるのです」とあったのが  
忘れられなかったからです。

野付半島に降り立った時も、少しどんより  
として寒く感じられた。ここは浸食により出  
来た砂嘴で、フラワーロードにはセンダイハ  
ギ、ハマナス、クロユリ、エゾカンゾウ等が  
咲き、各々名札が立っていたのが有難かった。  
時間がないのでトドワラまで行き引き返  
した。鳥はヒバリ、ノビタキなど。鴨の様な集  
団が野付湾に飛び込んだが何だか判らな  
かった。歩いていたら暑くなってきた。

次の予定のポー川史跡公園をやめ、日本で  
最大のシマフクロウ観察の宿へ急ぐ。

民宿 鷺の宿 観察舎に隣接する本館に8  
名、少し離れた別館に13名が分宿。私たち  
は別館に荷物を置き、食堂兼観察舎に7時  
からの夕食を食べに行き、そのままシマフ  
クロウの登場を待つ。昨夜は11時に出たとの  
こと。皆場所を確保し早くもカメラをセッ  
ティングしたりする。私は電池切れになっ  
たので、慌てて充電する。食後のこととて眠  
くなり身を伏せ始めた人もいた。待ちきれ  
なく別館に帰る人も出始めた。私は出て  
来るまでは頑張るつもりでいた。眠気覚  
ましに小声でもやま話を楽しんだが一向  
に現れる気配がない。宿のご主人は盛  
んに「絶対出ます。毎日出ているんです  
から」と語気を強めて言うが、とうとう  
12時を回ってしまい、ここで

帰る人が続出。ところが別館迄の送迎は軽自動車だった為、一度に3人しか乗れず、残されたが為シマフクロウを観ることが出来たラッキーな人もいました。

ご主人が「鳴いてる。鳴いてる。来るよ。来るよ」と言うのですが、左耳が急性低音難聴になっている私には聞こえません。12時半頃にまず左上の木に止まり、溪流の生簀に降り立った瞬間、凄まじいシャッター音。私も事前の試し撮りの設定で、夢中でシャッターを押す。ややあってもう1羽が後ろ向きに降り立つ。が、この方は何かを警戒している様子で、じっと辺りを伺っていたが、やがて魚を啄み、先の1羽次の1羽と飛び去り、5時間近く待機し30分弱の本日のメインイベントは終了し、就寝したのは2時を回っていました。

15日 朝探もなく、朝食後宿のおかみ川村千恵子さんの説明によると「右に足環があるのが、左にあるのが でした」と。続いてご主人から「オスが警戒していたのは、ヒグマが来ていたんだ」と聞かされた時にはびっくりしました。また本館宿泊者は2回目の2時にも のみを観たとのこと。

7時30分予定通り宿を発ち、知床峠のハイマツの上のギンザンマシコを観て、知床自然センターの遊歩道をプレペの滝まで歩く。ここではハルゼミが賑やかに鳴いており、鳥の声も聞こえず。アップダウンがありちょっときつい。草原に出ると右側に残雪の連山と灯台も見えた。左側の道を行くとプレペの滝に(別名...乙女の涙)展望台に上がると、これが滝?と思うほどの糸の様な流れがあり、眼下の崖の上にオオセグロカモメが数羽。ここに地元のメディアカメラマンがおり、「探鳥しているふり」を要求される。

オシンコシンの滝では下車し、近くまで行くとしづきと共に冷気が襲ってきて迫力を感じた。対岸の海中の岩場にシノリガモが1羽佇んでいた。

次の小清水原生花園は昔に比べるとだいぶ整備されている感じがし、現に草刈り作業の人、園内パトロールの人がおり、ホオジロかと思ったが、ホオアカと教えてくれた。ベニマシコ、ノビタキなどがいて、花もたくさん咲いていた。小清水原生花園駅駅舎(JR)が残されていた。

次のワッカ原生花園は小清水よりずっと広大であったが、雨が降り出したので早々にネイチャーセンターでコーヒータイトとする。このセンターは立派な木造りで暖房が暑い位でした。ここのパンフレット(常呂高等学校ボランティア局・発行)には園内案内図と「ワッカ原生花園の野鳥たち」14種の写真。さらに「見つけた花をチェックしよう」と40種の花の写真に名前、咲く時期、花の大きさが記されていてとても良かった。

いよいよ最後の宿、サロマ湖岬の「船長の家」に到着。今晚は大浴場もあり夕食までにたっぷり時間があるので、皆入浴後に食堂へ行くことにする。ここで驚いたことは、4人で一卓の卓上に隙間なく並べられた料理の数々、2人で4杯のカニもついており、生ガキも沢山。ため息をつきながら食べていたら、向かいの青木さんが笑う。そういう彼女もため息をついている。カニ以外でも食べ切れないほどなので、カニはお土産にすることにし再冷凍して頂く。

16日 朝4時出発。1時間かけてシブツナイ湖に行くも雨になる。おまけに湖に抜ける道が途中から草で覆われ、行くことが出来ないで止む無く戻ること。しかしここのウグイス、正調もいたが~弁のウグイスが面白かった。カッコウ、オオジシギの声も聞こえ、見渡す限りの草原や畑で、観光客としては良いが、生活者にとっては大変だろうという話になった。宿に戻り朝食、荷造り、朝市での買い物を済ませ昨夜のカニと共に宅配便で送る。まだ時間があつたので隣接の国指定史跡の ところ遺跡の森 を散策。盛んに囀っている鳥がいる、やっと見つけてシジュウカラだと判る。やはり~弁であろうか。9時から開館の古代ドーム(70歳以上無料)で出発までの時を過ごす。9時30分宿を出発、移動時間120分なので美幌町のコンビニでお弁当を買う。美幌峠の展望台に上った頃は晴れて360度見渡せる景色は壮観。屈斜路湖を俯瞰する。中島の右手のげんこつのように突き出た半島がこれから行く最後の探鳥地、和琴半島だと教わる。

和琴半島では自由探鳥となり、私たちは写真組の邪魔にならない様別行動をとる。ゴジュウカラ、ハシブトガラが囀りアカゲラのペアが巣穴付近を行ったり来たりし、その近く

ですと囀っている主を探し当てたらアオジだった。お目当てのシマエナガが見られなかったのがちょっと残念でした。

今回の探鳥会は繁殖期と重なった為か、ペアが多く観られ、かつ遠くへ飛び去って行くことが少なかった様に思いました。2、3年前から北海道探鳥を望んでいたにもかかわらず、事前の勉強を怠ったこと、特に鳴き声(囀り)についてはもっと勉強しておくべきであったと後悔しました。

さらに自分が作ったあみだくじで感想文を書く羽目になり、記憶力の薄れた今は、面倒でも場所、観た鳥などをその都度メモすべきであったとつくづく反省させられました。

天候に大方恵まれたこともあり、毎日多くの鳥を観ることが出来、4名の幹事の方々には心より感謝を申し上げます。同行の皆さん、お付き合い有難うございました。

#### 【幹事報告】

今回の道東探鳥会は、昨年11月の役員会議で、数年続いた海外探鳥会に代わり平成29年度の上期行事に当会の公式行事として初めて計画されたツアー探鳥会です。

会報正月号に案内記事が掲載され、実質的な募集が始まり、幹事4名は航空券手配、予算案作成、探鳥ルート・日程、バス及び宿泊先の選定など準備が多岐にわたり、一気に盛り上がりました。

幾つかの変更点もクリアーし、2回の説明会を経て、6月12日出発の日を迎えました。参加者は、総勢21名(男性14名、女性7名)、平均年齢70超(?)のベテランが殆どの面々です。

行程は、本来なら5泊分の内容を4泊に組み込む短縮した少し欲張りというかハードな日程になりました。

その内容の特徴は、2時間半乗船の落石クルーズを加えたこと、最終日(16日)を有効にするため帰路の便を夕方にしたこと、年齢的配慮により使用バスを中型から大型に変えたこと、毎朝4時からの“朝探”を最終日以外は自由参加にしたことなどが挙げられます。

それでも、一日の延べ移動距離は最短で91km、最長246kmで、合計783kmとなり観察場所は、主なもので22カ所(一カ所当たり観察時間は1時間~3時間)に至るタイ

トな全行程になりました。(予定行程から、先を急ぐためポー川史跡公園だけは外しました。)

バスの運行は、渋滞も無く概ね1km1分計算で済みまし、何よりも各人2座席占有のゆったり感が、昼食をコンビニ調達での車中食を可能にし、飲食が進む程でした。

天候にも恵まれ、ワッカ原生花園で小雨になったくらいで快晴とは言えないけれど探鳥には問題なしの日々でした。

今後の参考になる事柄としては、風連湖(春国岱)の荒廃が酷く、木道の修復も途中で、鳥影が少なかったこと、初体験の落石クルーズは航路上左舷側が観察機会が多いことが分かったことに加え、湾から外洋に出ると途端に波、うねりが続き、寒さに波しぶき加わるので防寒防水をしっかりと準備すること、水温は5程度なのでもし落ちたら5分と命がもたないこと、羅臼のシマフクロウは代替わりしていてまだ若いペアのため、出現時刻が定まっていないため、我々は、夕食後途切れがちな緊張と眠気と闘いながら結局5時間半も待機せざるを得なかったこと、知床峠では麓は晴れてでしたが峠に近づくにつれ霧が濃くなり、強めの寒風とガスの流れる中、ギンザンマシコに会えたのは強運な方々に限られてしまったこと、朝4時出発という唯一の全員参加“朝探”ポイントのシブノツナイ湖は大型バス乗り入れが途中まででかつ散策路も途絶え進路不良で断念したことなどなどです。

期待と失望、気力と疲労などが交差し、年齢なりの寛容と忍耐が物言う5日間であり、延べ75種の野鳥たちとエゾシカ、キタキツネ、アザラシ、ラッコ、(私は会えなかったけれど)ヒグマという北の動物たちとの出会いの旅でした。

<認めた鳥> オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、ウミアイサ、キジバト、アオバト、ウミウ、ヒメウ、アオサギ、ダイサギ、タンチョウ、カッコウ、ツツドリ、アマツバメ、オオジシギ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ケイマフリ、ウトウ、エトピリカ、トビ、オジロワシ、ノスリ、シマフクロウ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、

ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、マキノセンニュウ、シマセンニュウ、エゾセンニュウ、コヨシキリ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、ムクドリ、カワガラス、コマドリ、ノゴマ、ルリビタキ、ノビタキ、サメビタキ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ギンザンマシコ、ウソ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン 計 75 種

<参加者>青木典子、浅野利幸、天野睦子、大久保陸夫、小澤淳宏、金子幸子、古出洋子、古賀嗣朗、古賀道子、鈴木裕爾、鈴木幸子、多葉田五男、津村勝吉、中根忠、弘實和昭、弘實さと子、間野吉幸（幹事）桑森亮、田中功、松田幸保、松本勝英 計 21 名

手賀沼周辺でも、毎年 100 種前後の野鳥を観ることができ、このような珍しい鳥にも出会えることに、参加者一同、感銘を受けておられました。

桑森事務局長から今後の行事予定に関して、詳しい紹介があった後、参加者からの質疑応答が行われ、活発な質疑が行われました。その後、新入会員皆様の自己紹介が行われ、和やかな内に船津副会長の閉会の挨拶があり新入会員皆様には、当会の紹介や、当会の記録、当会作成スライドショー、探鳥ツール等満載の特性 DVD が配布され散会しました。参加者：【新入会員】青木明、植田禮子、菊地幸雄、菊地昌江、斎藤登美子、斎藤空良、坂元貴子、佐和橋みどり、鈴木美枝、高波宣子、徳重玲子（以上新入会）、肥後邦彦（再入会）【既会員】間野吉幸、古出洋子、船津登、桑森亮、相良直己 計 17 名

---

---

## 新入会員オリエンテーション

6月24日

---

---

昨年度から最近までに入会された新入会員の方を対象に、新入会員オリエンテーションが6月24日(土)、水の館3階研修室で開催され、12名の新入会員が参加されました。三々五々集まった参加者は、世界の美しい鳥のスライドショーに目を瞠りながら、開会を待ちます。定刻となり、間野会長の歓迎のご挨拶から始まり、当会のミッション、当会の運営体制の紹介がありました。次いで担当の相良幹事より、当会の紹介が下記内容で行われました。

当会の他では得られない特徴 / 楽しみ

当会の名人たち

当会の年間活動

これまでの探鳥地と出会った鳥たち

こんな時のコンタクト先

船津副会長からは、『先達に聴く、探鳥の楽しみとヒント』と題して、探鳥の仕方・探鳥の楽しみ方に加え、手賀沼周辺で確認された珍しい鳥として、手賀沼周辺の探鳥地と、アカエリヒレアシシギ、コゲンカンドリ、アカガシラサギ、タマシギ、ミヤマホオジロ、サンコウチョウ、ツバメチドリの7種が写真や動画を用いて紹介されました。

---

---

## 映写会

7月23日

---

---

本年度の映写会が、48名の参加を得て、下記のごとく、成功裏に開催されました。

日時 7月23日(日) 9:00~13:00

会場 水の館3階研修室

間野会長の開会挨拶の後、担当幹事石渡さんの司会進行の下で、会員の力作・傑作の数々が順を追って発表されました。

各発表者から撮影時の秘話や解説もあり、素晴らしい感動的な作品の数々に時間も忘れ、堪能することができました。

船津副会長の挨拶で閉会し、感動の余韻に浸りながら、懇親会の会場へと移動しました。発表者と発表タイトルは下記の通りです。

<発表者と発表タイトル> (敬称略)

- 1: 池田日出夫 (写真 40 枚) [春の渡り鳥]
- 2: 野口隆也 (写真 29 枚) [関東甲信で出会った鳥]
- 3: 仲澤成二 (写真 40 枚) [思い出 2017]
- 4: 川上千里 (スライドショー) [コブハクチョウのヒナ]
- 5: 渡邊俊文 (写真 40 枚) [ハブニング (Happening)]
- 6: 古賀嗣朗 (写真 40 枚) [カナダ バンクーバーの鳥]
- 7: 浅野利幸 (写真 40 枚) [今年の嬉しい鳥た]

ちとの出会い]

- 8 : 百瀬喬(動画)  
「手賀沼を訪れた珍しい鳥 2016」  
「鳥たちの子育て」  
「只今お食事中(アリスイ、ツミ、ヨシゴイ)」
- 9 : 中西榮子(写真 40 枚)[水辺の春、思い出いろいろ、カッコウ托卵]
- 10 : 桑森亮(写真 40 枚)[ムシクイ類と大型ツグミ類、そして初見の鳥達]
- 11 : 仲澤成二(写真 40 枚)[思い出 2016]
- 12 : 田中功(写真 40 枚)[道東・三宅島・船倉島で出会えた鳥]
- 13 : 松田幸保(動画)[私は Oyster Catcher (ミヤコドリ)]
- 14 : 多葉田五男(写真 40 枚)[BATAの身近な自然 野鳥編 2]
- 15 : 間野吉幸(スライドショー)

[道東探鳥写真紀行]

今年も発表者からは事前に作品をお預かりし、予めスライドショーに編集した上で、発表をしていただきました。

この結果時間通りの効率的な運営もでき、作品の見栄えも素晴らしく大変好評でした。また、6月に実施された道東探鳥旅行での貴重な写真も複数の会員より紹介がありました。なお、動画、スライドショーを除く発表作品は、当会ホームページの“映写会写真集”に掲載されます。当日、参加されなかった皆さんは、ホームページ上でお楽しみください。

また、今年度末に作成される 2017 年度当会活動の記録 DVD には、掲載にご同意頂いた動画、スライドショーを含む全作品が掲載されます。

<参加者> (敬称略 50 音順)

青木明、浅野利幸、天野正臣、天野睦子、池田日出夫、石井俊子、石渡成紀、小澤淳宏、金子幸子、金子雅幸、川上千里、川越久枝、菊地幸雄、菊地昌江、木村稔、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、小林寿美子、小林千恵子、小林美智子、坂元貴子、相良直己、佐藤弘美、佐和橋みどり、芹澤正子、田中功、多葉田五男、千葉洋、常盤孝義、仲澤成二、中西榮子、西嶋昭生、野口隆也、野口紀子、野口洋子、肥後邦彦、弘實和昭、船津登、松田幸保、松本勝英、松村洋子、間野吉幸、村井みと、森本宜久、森洋子、吉田隆行、渡邊俊文(担当幹事) 石渡成紀、相良直己 計 50 名

---

---

## 懇親会

7月23日

---

---

7月23日午前の「水の館」での映写会後、近くの「どん亭」で“ランチ懇親会”を 13:30 より行いました。参加者は、男性 28 名、女性 15 名で総勢 43 名です。席は 7 つの鳥グループに設定、お料理もミニ牛鍋定食と宴会モードいっぱいです。さて会員の方々は...? 十分に盛り上がっています。映写会の高揚感が流れ込んだのでしょうか、鳥談議に花が咲き、又お互いの近況報告、と話し声、笑い声が飛び交っています。1 時間位した後、グループごとに競う鳥ゲームを行い順位により各々景品が配られました。約 2 時間を以って 5 回目の懇親会がお開きとなりました。幹事の至らない所多々ありましたでしょうか、お楽しみいただけただでしょうか。皆様のご協力ありがとうございました。

<参加者> 吉田隆行、松田幸保、古賀嗣朗、間野吉幸、仲澤成二、佐和橋みどり、船津登、田中功、浅野利幸、川上千里、小林博之、内田佳穂子、池田日出男、渡邊俊文、多葉田五男、桑森亮、弘實和昭、梶原裕美、森本宜久、西嶋昭生、染谷迪夫、小玉文夫、小澤淳宏、村井みと、類地佑子、青木明、佐藤弘美、坂元貴子、常盤孝義、千葉洋、金子雅幸、松本勝英、野口隆也、野口洋子、天野睦子、芹澤正子、石渡成紀、相良直己

<幹事> 古出洋子、野口紀子、小林寿美子、小林美智子、石井俊子 計 43 名

---

---

## 第 25 回 野鳥サロン

7月13日

---

---

第 25 回野鳥サロンが 7 月 13 日(木)に水の館 3F 研修室で開催されました。

まず初めに、「全国鳥類繁殖分布調査について - 現状と調査体験から - 」をテーマに、桑森が報告した。この全国鳥類繁殖分布調査は 1970 年代と 1990 年代に環境省により実施されたが、前回から 20 年を経た今回は、バードリサーチ・日本野鳥の会・環境省等が主体となって 2016 年から始まっている。こ

の調査の趣旨・概要と桑森の実体験（茨城県の2コースの調査に参加）について報告があった。また、現時点で分かっている調査結果の状況（鳥の増減・分布の動向等）についても紹介があった。

次に、「ツバメのくらし」をテーマに石渡さんが報告した。ツバメに関する3冊の文献を調べ、ツバメの渡来から番形成、営巣、産卵・抱卵、育雛、巣立ち、二番子の繁殖までの繁殖期、集団罅入りや渡去・越冬地といった非繁殖期について、その生態と特徴、面白く興味深いことなどを紹介した。ツバメは身近な鳥で、参加者からは、親から子への給餌方法や罅入りなどの手賀沼周辺での観察経験などが紹介されたり、ツバメの飛来の際は水面低く飛ぶとの説明には、その理由は・・・など、種々の意見交換で盛り上がった。

三番手は、「野鳥の名前」をテーマに石井さんが報告した。鳥の名前に関する2冊の文献を調べ、63種の野鳥の名前の謂れ・由来を一覧表にし、身近な鳥たちのそれを紹介した。鳥の名前の由来は、意外と知らないことが多く、由来の説が複数あったり、興味深いところが多い。参加者の皆さんは、へえっと驚いたり、名前の説から織物などの他の話しに話題が広がったり、楽しい意見交換になった。また、配布された63種の一覧表は、この鳥の名前は何で？と疑問に思った時に簡単に調べられる資料として好評だった。

当初は2つのテーマで案内していたが、「野鳥の名前」が追加となり、時間は10時からスタートし1時間半の予定が延長となって11時50分に終了した。

<参加者> 間野吉幸、千葉洋、橋本了次、畠中暁美、船津登、池田日出男、坂元貴子、鈴木静治、木村稔、渡邊俊文、松田幸保（担当）石渡成紀、石井俊子、桑森亮 計14名  
（報告 桑森亮）

---

---

## ホタルの夕べ

8月6日

---

---

日時 8月6日(日) 午後7時~8時20分  
観察場所：岡発戸谷津（ホタル・アカガエルの里付近）

参加者：【当会会員】染谷迪夫、金子雅幸、金子智恵子、村上稔、川上千里、内田佳穂子、村井みとい、畠中暁美、松田幸保、佐和橋みどり（担当：木村稔、桑森亮）計12名（内、鳥博友の会とのダブル会員が8名）【鳥博友の会だけの会員】6名【一般の方々】15名 合計33名

毎年夏の恒例行事である「ホタルの夕べ」を当会と鳥の博物館友の会の共催で行いました。

当日認められたヘイケボタルのカウント数は108頭、去年の347頭から大分少なくなりましたが、何とか100頭は超えました。実際の棲息数はこの1.5~2.0倍はいるのではないのでしょうか。

この日は曇り空で蒸し暑く、午後7時に集合し、谷津ミュージアムの会長でもある木村さんから谷津の保全状況やホタルのことをお話しいただき、観察会をスタートしました。15分程歩くと谷津に入り、5分程で湿地の中にホタルが3頭現れました。歓声を上げていると突然雨が降り出しました。そこで、木の下で10分程雨宿りとなり、引き返すかどうか悩むところでしたが、少し小降りになったので先に歩みを進めることにしました。間もなく雨が収まり、歩道脇の湿地にホタルの小群が出始めました。ホタル・アカガエルの里付近の水辺にもホタルが乱舞しています。参加者の皆さんは久しぶりのホタルだとか、子供たちは仄かな灯りに手を差し出したりと、それぞれ幻想的な光りと癒しのひと時を楽しんでおられました。

昨年沢山見られた場所が今年は見られないなど、環境の変化でホタルの棲息場所や棲息数も変わるようです。それでも何とか3桁のホタルが観察され、これで9年連続3桁となりました。これも谷津の保全・整備をされている谷津ミュージアムの会のボランティアの方々のご尽力のお蔭であり、感謝申し上げます。

今年は参加者名簿に居住地の欄を設けてみましたが、我孫子市以外から21名（柏市13名）と、市外から沢山の方々が来られました。ホタルの棲息地が限られるようで、こうした場所が多くの方々に認められ、保全が継続できるように願っています。

（報告 桑森亮）

## 7月役員会報告

日時 7月9日(日) 13:00~16:00

場所 水の館 3F 研修室

出席者数 20名

議 事

1. 幹事の補充選任について  
間野会長が新任幹事に坂元貴子さんを推薦し、承認されました。
2. JBF2017 出展について  
出展内容の骨子と主担当幹事を決定し、出展申込書の内容を確認しました。  
JBF2017は昨年同様に「手賀沼親水広場」と「アビスタ」を中心に11/4(土)、5(日)に開催されます。今年は、リニューアルした水の館の多目的広場が「オオバン広場」として使用され、当会はこのオオバン広場で出展予定です。出展内容等は行事案内をご覧ください。
3. ほーほーどり 258号掲載予定記事  
会報258号の掲載記事について検討し、執筆担当等を決定しました。

なお、6/12~16に実施した「道東探鳥会」報告は頁数が多くなる見込みで、会報本体に取り込むか別冊にするかは、その取扱いを編集会議に一任しました。

4. 29年度第1四半期会計報告について  
第1四半期の会計報告を了承しました。
5. 第26回「野鳥サロン」について  
9月16日(土)水の館3F研修室で開催する予定で、詳細は行事案内をご覧ください。
6. 報告事項  
次の事項が報告されました。  
新入会員オリエンテーション(6/24)  
対外活動状況(美手連関係、市民の力実行委員会、JBF2017実行委員会等)  
・従来のおびこ市民活動メッセは、イベント名称が「市民の力」とされ、開催日は11月25日(土)、26日(日)になる予定で、当会も出展を検討しています。  
事務局報告事項
7. その他  
2/22に実施した鳥の博物館前館長の斉藤氏による講演録の冊子については、鳥の博物館友の会と協同で内部資料として作成し、会員の皆さんに配布することにしました。

以上

## 特集寄稿

<今年6月、会の行事として初めて道東探鳥会が行われ、参加者から多数の感想文・所感が寄せられました。通例の実施報告と別に本稿を設けました>

道東探鳥会ツアーに参加して(所感)

津村勝吉

野鳥の宝庫と云われている道東地区巡り四泊五日の探鳥ツアーに参加。

初日、釧路空港からツアーバスで厚岸道立自然公園に向かう途中、空港近くの草原で悠然と佇むタンチョウ3羽を観察。運転手の機転でバスを止め車中からペアのディスプレイを観察。二日目、根室半島落石岬でのオジロワシ観察。三日目の夜は羅臼のシマフクロウとの出会いを期待しスタンバイ。23時を過ぎても反応なし、諦めかけて引き上げの支度を始めた矢先、宿の主人から鳴き声が聞こえる、近くに来ている、絶対に来るからと言われた。午前0時を過ぎてポイントに1羽、続けて1羽と飛来。今回の目玉としていたシマフクロウとの出会いが成就、幸運でした。なお、初夏から夏にかけて原生花園には多くの小鳥たちが集う。育雛に欠かせない多くの芋虫が湧き出ているからだ。子育てで頑張っている親鳥の姿を各地区の原生花園で観察できて心が和みました。

道東広範囲の探鳥地を引率頂きました幹事団の皆様、全行程にわたり探鳥スポットへバスを安全運行して頂いた運転手さん、ありがとうございました。

多葉田五男

初めての北海道探鳥の旅でした。タンチョウ、オジロワシ、エトピリカ、ウトウ、ケイマフリ等、初見初撮りの多くの鳥に出会い感動しました。又、千葉では冬鳥のベニマシコ、ウソ等がちょうど繁殖期で、間近に観察することが出来ました。羅臼町の「鷺の宿」では忍耐力不足で折角のシマフクロウ撮影のチャンスを逸し残念でしたが、機会があれば再チャレンジしたいと思っています。天候にも恵まれ実に楽しい探鳥会でした。お世話になった幹事団の皆様並びに親切にいただいたご参加の皆様へ感謝致します。

行ってきました 道東探鳥会

天野睦子

大型バスに乗車、余裕ある快適な走りで道東を探鳥した4泊5日の旅でした。本州とは異なる美しい自然環境、野鳥や草花を体感しながらの爽やかで感激を伴う旅でした。なかでもシマフクロウは、真夜中の遭遇でしたが、眠気も吹っ飛ばす程の感激に震え、夢中でシャッターを切りました。北海道を代表するオジロワシ、タンチョウもしっかり確認できた他、キタキツネの母親との遭遇もありラッキーでした。参加の皆様とも久し振りにお会いでき、会話も弾み楽しく過ごさせていただきました。自然がいっぱい残る北海道を堪能できた素晴らしい旅行でした。

幹事の皆様へ、お礼と感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

道東探鳥会・所感

古賀嗣朗・道子

幹事さん達の綿密な詳細スケジュールの下、4泊5日道東探鳥会が成功裡に終わり、感謝に堪えません。盛り沢山の探鳥シーンの中、少しばかり印象に残る事柄を列挙し、所感とします。

- 1) 釧路空港をバスで出発直後、嬉しいことに道路脇の草原に遊ぶタンチョウ 3羽の歓迎を受けた。
- 2) 風連湖の朝探で、エゾセンニュウの「トッピンカケタカ」とはっきりと綺麗な大声を初めて聞いた。
- 3) 落石クルーズで、待望のケイマフリ、ウトウ、エトピリカなどを見ることができた。
- 4) 「鷺の宿」で、24時過ぎにはなったが、シマフクロウ 2羽の魚獲るシーンが見れた。
- 5) サロマ湖畔の宿「船長の家」の夕食、蟹 3種の盛合わせ付ご馳走を食べきれなかった。
- 6) 最終日、和琴半島を約1時間で一周した。海辺に温泉があり、入口の露天にアベックがいた。

小澤淳宏

スケジュール的にかなり強硬日程の探鳥旅行でしたが、大きなトラブルもなく無事終ることが出来たのは、幹事団の入念な下調べのお陰です。

今回は大型バスで一人座席使用できたことも大変助かりました。本当にありがとうございました。

初めて観る鳥が多く、とりわけ念願のシマフクロウを撮ることができ、満足度 100%です。

道東探鳥会

青木典子

道東を訪れたのは学生時代以来で懐かしくバスの車窓の風景にも北海道を感じながらの旅の始まりでした。ご一緒させて頂いて本当に楽しかったです。

色々な初めて見る鳥に出会うことが出来ました。タンチョウを始めシマフクロウ、オジロワシ、ノゴマ、ギンザンマシコ等々、見つけては感動です。落石クルーズでは荒れる海を想像して恐る恐るの乗船でしたがとても愉快的な体験が出来ました。

色々のご苦勞をされてお世話を下さいました幹事の皆様、ご一緒下さった皆様へ深くお礼を申し上げます。

大型バスで2席使用でカメラスペースがあり快適の旅でした。このエリアの探鳥は流氷の冬と6月大洗からフェリーで2回ほど周り今回で4回目の旅でした。相手が鳥でその都度変化があり面白い。今回の旅で2か所クローズアップしてみます。まず落石の港から2艘の漁船に分乗して出発、今回は前回に比して鳥の出はあまり良くありませんでしたがウトウとケイマフリは比較的近くで撮影ができよかった。期待していたエトピリカは遠くに見られたが写真としては期待外れでした。このエリアは2月ごろ流氷がやってきてその流氷にエサとなる魚を撒いてオオワシ、オジロワシが集まり争って食べにくるシーンが撮影出来ます。もう一つは羅臼の鷲の宿で夜中に魚を食べに現れる日本で最大のフクロウ、シマフクロウを観察することで今回で3回目のトライです。今年は繁殖に失敗したとのことで、例年ですと暗くなる8時ころから宿の前を流れる川に現れるのですが、今回はなかなか現れず12時過ぎにやっと現れた。2回目に現れたのは2時30分、部屋の窓を開けての撮影、飛来して近くの木から水場に降り魚を足で捕まえ食べるシーンを撮影することが出来た。

對道東探鳥会的幹事表示感謝

大久保陸夫

今回の探鳥会では幹事の皆様のご努力により、事前準備が万全で、お陰様で十分に鳥見撮りを堪能できた。なかでも、圧巻だったのは14日と15日の貴重な体験だ。14日午前、落石クルーズが始まる。船は前後左右に揺れ、波に翻弄され、立っているのも間々ならない。お目当てのエトピリカは遠くを飛翔、残念。しかしケイマフリ・ウトウは近くで観察成功。夕刻、羅臼に到着。夕食後、早朝からの出勤で疲労困憊。仮眠のつもりが大爆睡。15日の1:10頃に目が覚める。シマフクロウは0:45頃出たとのこと。大失敗。気を取り直し、再度の出玉に期待。迫りくる睡魔に悩まされながら、頑張った。1:50頃、動物らしきものが20数メートル先の笹藪を横切る。2:00頃、宿のご主人が来て、今、横切ったのはヒグマとのこと。加えて、後30分後にシマフクロウが出るとの伝達あり。ヒグマの出現と聞き、後付けだが、改めて恐怖感を味わう。2:40頃、予告通りシマフクロウが出現。連射!連射!・・・! 快!快!・・・!

仮眠後、朝食をとり、知床峠に移動。お目当てのギンザンマシコの撮影に成功。大満足!最後に「表記(中国語)の翻訳:道東探鳥会の幹事様に感謝申し上げます。」

春国岱のトドワラ

弘實和昭

春国岱は、風蓮湖と根室湾を分ける砂州で形成された湿地及び原生林で、有史以来ほとんど人の手が入っておらず、高い原始性を保持しており、多様な植生、野生動物を見ることが出来ると紹介されている。木道を歩いて探鳥する。空には揚げ雲雀が囀り、林ではカッコウが鳴く。しかし、タンチョウ、オジロワシはなかなか姿を現さない。キタキツネの母親が、人間から貰った魚を啜って通り過ぎた。

「トドワラ」は、元はトドマツの原生林だったものが、地盤沈下に伴い海水に浸食されてきた白骨化した枯れ木群のこと。この風景は生命の存在を拒否するような迫力があり、芸術と呼ぶのに相応しい。

帰ってきて、絵を描く友人にトドワラの写真を送った。この風景なら、どんな絵描きでも素晴らしい絵にしようと思ったからである。

桑森亮

初めての北海道探鳥で初見の鳥も多く、毎日が楽しい日々を過ごせました。到着早々にタ  
ンチョウに出会い、ギンザンマシコを見つけた時は心が躍り、センニユウ類探し特にエゾセ  
ンニユウの声が印象的で、オオジュリンの夏羽、ノゴマの囀りも最高でした。

意外だった「鷺の宿」

松田幸保

過去2回非公式行事として実施され、今回公式行事となった「道東探鳥会」に幹事のはし  
くれとして参加した。2004年の初回に参加したが、今回もほぼ同じコースとなったことは先  
人に頭が下がる(前回もほぼ同じと聞く)。目玉の「鷺の宿」は、シマフクロウのために我慢  
して泊まる宿ではなくなっていた。初体験の宿「船長の家」は、民宿とは思えないスケール  
に驚かされた、また泊まってもよい。

道東探鳥会(感想文+幹事一言)

田中功

初めての「会行事」としての「道東探鳥会」の初期構想・計画の段階から参加させていただ  
き、チームワークのよい幹事団の一員として、探鳥地の選定・予算枠・日程・関係先との諸々  
の折衝や諸準備などを経て実施に至る事ができて大変悦ばしく思いました。現地では、「道東  
を代表する多くの鳥たちとの出会い」に感謝興奮感激し、原生花園の可憐で麗しい赤・黄・  
白・紫などの色鮮やかに咲き誇る花々や、道東の大自然の素朴な素晴らしさを体験し堪能で  
きたことを喜ばしく感じました。そして何より参加の全員が無事に大過なく帰ってくるこ  
とができたことに、概ね及第点乃至“大筋において期待通りの内容だった”との評価を戴けた  
のではないかなど、反省点も多々含めたうえで、振り返っています。参加各位の積極的な  
参加協力姿勢・協調と、遇々出会うことができた鳥たちに、只々感謝です。

幹事の一員としては、幹事団の素晴らしかったチームワークとパフォーマンスに、心から  
感謝しています。反省点のひとつは、「下見」をしていなかったことです。5年以上前の体験  
に依拠して、資料・データに頼って、計画を立てて、何とか、実施できる、と想定しまし  
たが、「下見」はやはり大事だ、と現場で痛感しました。特に、今回のごとく、長期間・多人数・  
変化する現地情報の不足、といった要因がある場合は、山岳登山の場合同様、下見は、時間  
的・費用的な諸コストを払ってでも、実施すべきではなかったかと、反省しています。

## 鳥 だ よ り

今年は空梅雨のようで6月から夏日が続きましたが、暑さに負けずに鳥だよりが届いてい  
ます。千葉県レッドデータブックの最重要保護生物に指定されているアオバスク、ヨシゴイ  
やコアジサシが現れて報告されています。

5月は鳥たちにとって大事な子育てのシーズン、手賀沼周辺では多くの子育てが観察され  
ます。サシバの子育てが観察され、多くのバーダーを楽しませてくれましたが、もうすぐ集  
団となって南に渡って行くことになります。

重要保護生物のチュウサギも我孫子市の周辺で子育てし手賀沼近辺によく現れていまし  
た。コチドリは、小石の原っぱで卵を産み育てますが、砂利で舗装された駐車場などで産む  
こともあり、車に潰されてしまう悲劇もあるようです。見守ってあげたい事のひとつですね。

要保護生物に指定されているツミの白いひな鳥がバーダーを和ませてくれました。ツミは  
かつては幻の鳥ともいわれ、イヌワシやクマタカと同じレベルとされていたこともあった  
様ですが、最近では住宅地の近辺でも繁殖が確認され、身近な鳥となったようです。

暑い夏は鳥影は薄く、報告も少なくなりますが、この時期でないとも見ることのできな  
い鳥の生活形態もあります。楽しく観察しご報告ください。

- 5.21 [ 戸張 ] ヲウゲ ンボリ(1) 鉄塔の中腹から  
畑に降りてスズメらしき鳥を捉まえた  
吉田隆行
- 5.22 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] 札 舂(3)  
木の枝でさえずる  
船津登
- 5.22 [ 湖北 ] 朴 舂(1)  
湖北の窓から声を聞く  
村井みとい
- 5.23 [ 手賀新田 ] チウサギ (2)  
田で採食  
鈴木静治
- 5.23 [ 千間橋 ] チウサクヅ (1)  
田の畦より飛ぶ ( 終認 )  
鈴木静治
- 5.23 [ 浅間前 ] セツカ(3)  
田の上を鳴きながら飛ぶ  
鈴木静治
- 5.23 [ 我孫子新田 ] コドリ(3)  
家庭菜園隣接の駐車場に、親子 3 羽 ( ヒ  
ナ 2 羽 )  
田中功
- 5.24 [ 古戸 ] コドリ(1)  
葎原の葎の茎に止まり囀る  
鈴木静治
- 5.30 [ 布瀬 ] サバ (1)  
上空を飛ぶ  
船津登
- 5.31 [ 布佐平和台 ] ハブサ(2)  
2 羽が鳴きながら鉄塔周りの上空を飛ぶ  
鈴木静治
- 6.01 [ 布佐平和台 ] アバスク(1)  
夜半鳴き声  
鈴木静治
- 6.01 [ 岡発戸新田 ] ヒ (2) 上空を滑空  
鈴木静治・船津登・千葉洋  
・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸
- 6.04 [ 柏市 ] ツ(1)  
巣の中に雌  
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.05 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] アカ(1)  
木から木へ飛ぶ  
船津登
- 6.05 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] ヤガラ(1)  
船津登
- 6.05 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] 札 舂(1)  
竹林の中でさえずる  
船津登
- 6.06 [ 高野山 ] 朴 舂(1)  
鳴き声  
平岡考
- 6.07 [ 布佐平和台 ] 伽ナドリ(1)
- 6.08 [ 鷲野谷新田 ] ヲウゲ ンボリ(1)  
電線に止まる  
船津登
- 6.09 [ 都部新田 ] チウサギ (22)  
沼上空を群れて飛ぶ  
鈴木静治
- 6.10 [ 手賀新田 ] コドリ(2)  
畑の上を飛びまわる  
鈴木静治
- 6.11 [ 岡発戸新田 ] ヒク(1)  
沼岸で鳴く  
鈴木静治
- 6.12 [ 布瀬 ] セゴイ(1)  
飛翔し移動  
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.12 [ 片山新田 ] カコ(1)  
鳴きながら移動  
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.12 [ 片山新田 ] アサツ(1)  
水面の上を飛翔  
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.15 [ 北新田 ] セツカ(10)  
畠中暁美・井上正・高波宣子・他
- 6.18 [ 泉 ] 札 舂(1) 林の中で囀っていた  
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.19 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] ヤガラ(1)  
船津登
- 6.19 [ 戸張新田 ] ハブサ(1)  
鉄塔 96 上部に止まっていた  
吉田隆行
- 6.20 [ 古戸 ] コドリ(4)  
葎原の葎の葉先で囀る  
鈴木静治
- 6.22 [ 千間橋 ] チウサギ (2)  
水田で餌獲り  
鈴木静治
- 6.24 [ 柏市 ] ツ(4)成鳥雌 1、幼鳥 3  
羽が鳴きながら移動  
飯泉仁
- 6.24 [ 布佐平和台 ] 朴 舂(1)  
早朝鳴く  
鈴木静治
- 6.24 [ 布佐平和台 ] コドリ(1)  
調整池の水溜りを歩く  
鈴木静治
- 6.26 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] 材カ(1)  
木に止まる  
船津登
- 6.26 [ 片山 ( 手賀の丘公園 ) ] 札 舂(1)  
小枝でさえずる  
船津登
- 7.02 [ 柏市 ] ツ(4)

成鳥雌が脚に餌をぶら下げて帰還、若鳥たちがその後を追尾 飯泉仁

7.02 [ 片山 ] ヌバ (1)  
鳴きながら出現 飯泉仁・飯泉久美子

7.03 [ 大井新田 ] ヲカ(1)  
セイタカアワダチソウの天辺で鳴いていた 吉田隆行

7.04 [ 布佐平和台 ] 伽ナリ(1)  
調整池の水溜りを走る、鳴く 鈴木静治

7.07 [ 手賀沼 ] ヒク(1)上沼 1  
金子雅幸・船津登・桑森亮

7.07 [ 布瀬 ] ヲコイ(1)  
中洲の蒲の根元より岸に 鈴木静治

7.07 [ 手賀沼 ] ノリ(2)下沼 2  
金子雅幸・船津登・桑森亮

7.09 [ 日秀 ] ヲカノ氷(1)  
電柱に止まる 鈴木静治

7.10 [ 片山 (手賀の丘公園) ] ヤガラ(5)  
船津登

7.13 [ 古戸 ] ヲナリ(1)  
葎原中の小さな柳に止まり囀る 鈴木静治

7.13 [ 江蔵地 ] ヲカ(8)  
水田で餌探し 鈴木静治

7.14 [ 泉村新田(手賀沼) ] ヲカ(4)  
杭に止まる 船津登

7.14 [ 片山 (手賀の丘公園) ] ヲカ(1)  
小枝に止まり、地鳴き 船津登

7.15 [ 北新田 ] ハヤサ(1)  
飛翔 畠中暁美・松田幸保・他 7名

7.16 [ 大津川橋 ] ヲナリ(2)  
工事現場跡地で1羽は盛んに擬態らしき行動を繰り返した 吉田隆行

7.18 [ 片山 ] ヲカ(1)  
林の上を鳴きながら移動 飯泉仁

7.18 [ 箕輪新田(手賀沼) ] ヒ(1)  
水面の杭に止まっていた 飯泉仁

7.18 [ 我孫子新田 ] ヲナリ(2)  
澄んだ高い声で家庭菜園上空を颯爽と低空高速飛行する 田中功

7.18 [ 片山 (手賀の丘公園) ] ノリ(1)  
木に止まる 船津登

7.19 [ 古戸 ] ヲカ(3)  
葎原上を囀りながら飛ぶ 鈴木静治

7.19 [ 古戸 ] ヲナリ(1)  
葎原の中の小さな柳の頂に止まり盛んに囀る 鈴木静治

7.19 [ 江蔵地 ] ヲカ(1)  
水田で餌探し 鈴木静治

7.20 [ 布瀬 ] ノリ(1)  
川岸近くを泳ぐ 鈴木静治

今回寄せられた鳥の全種名  
アオサギ、アオバズク、アジサシ、アマサギ、イカルチドリ、ウグイス、ウミネコ、エナガ、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オナガ、カイツブリ、カッコウ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キビタキ、クロハラアジサシ、コアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コチドリ、コブハクチョウ、コヨシキリ、サシバ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、チュウサギ、チュウシャクシギ、チョウゲンボウ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒクイナ、ヒバリ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオジロ、ホトトギス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシゴイ  
計 61 種 <番外種> アヒル、カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉仁	283
飯泉仁・飯泉久美子	112
金子雅幸・船津登・桑森亮	19
鈴木静治	235
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・千葉洋	20

鈴木静治・船津登・池田日出夫・金子雅幸・ 蒲田知子・千葉洋・古出洋子	16
田中功	2
畠中暁美・井上正・高波宣子・他	25
畠中暁美・松田幸保・他 7 名	24
平岡考	1
船津登	134
松本勝英	1
村井みとい	2
吉田隆行	16
総計	890

(弘實和昭)

## 会からのお知らせ

### <お断り>

「会員だより」は、紙面の都合により、割愛しました。

### <新入会員紹介>

青木明（我孫子市在住）

関口英治・久美（我孫子市在住）

鈴木美枝・麻理絵・尋貴・貴雄・麻美（柏市在住）

### <ご寄付>

中西榮子さんよりご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

## ほーほーどり No. 258 (2017年9~10月号)

発行 2017年9月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台 2-15-17 桑森亮 Tel: 04 7182 3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円（大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料）